

## 1、学校人権・同和教育目標 「互いに認め合い、差別を見抜き許さない子どもの育成」

## 2、学年人権学習の取り組み

・1年生 「 男だから・女だから・というイメージについて考えよう 」

人権擁護委員の上野尚子さん、富田さんをお招きし、『男だから、女だからというイメージについて考えよう』というテーマで、お話していただきました。授業では、「みんなちがって」というペープサートを見て、髪の毛の長さや服装、料理など、様々な視点から、決めつけた見方をしていないかを振り返りました。また、「種をまこう」という冊子の中にある「帰り道で」というお話では、蝉がきらいで泣いてしまった男の子に対して、決めつけた見方について考えました。この「種をまこう」という冊子は、保護者の方に配布して、家庭でも、人権について、お子さんと共に考えてもらうよう、呼びかけました。子どもたちと保護者の方で考えを聴き合ったり、一緒に歌を歌ったりして、親子で共に、人権について考え合う機会となりました。

## 【子どもたちの感想】

- 蝉が嫌いなのは、私と一緒にだった。
- こうちゃんは、そのままがいい。
- こうちゃんと虫がきらいなのはいっしょ。男の子と女の子は関係ない。
- 男の子も女の子も関係ない。好きか嫌いかなだけ。
- はじめは、男の子なのに虫が嫌いなんだなあと思ったけど、男の子、女の子かは、関係ない。

・2年生 「 じぶんのきもちをかんがえよう 」

2年生では、「みえ出前トーク」を活用し、「じぶんのきもちをかんがえよう」と題して、子どもの権利について学習を行いました。動画を観ながら、本当のことを言いたいけど、相手の顔色を気にして、自分の気持ちを言えないでいるキャラクターについてロールプレイを活用し考えました。子どもたちからは、動画内のキャラクターと同じように、「自分も本当の気持ちを言えなかった経験がある。」や、「自分の思いを伝えられて良かった。」と、自分の思いを伝えることの大切さに気づきました。話し合う中で、自分に考えがあるように相手にも考えがあるとわかりました。お互いに思いを伝え合えないことで、大きな行き違いや、不安な思いが募ってしまうことに子どもたちは気づきました。最後に、三重県の大人たちは大切な子どもたちの権利を守ろうとしてを知り、自分たちもお互いの権利を守っていくことが大切だと締めくくりました。権利は、自分らしく幸せに生きていくために生まれた時から持っている大切なものだとして学びました。そして、お互いの権利を守っていくことで、みんな幸せになれることも学びました。

## 【子どもたちの感想】

- 自分のことを声に出すのは良いんだと思った。
- がまんせずに言った方がいいなって思いました。
- 自分の気持ちもあいての気持ちもどちらも大事。
- 気持ちを言おう、気持ちを聞こうが大切だと思った。

・3年生 「 だれもが安心して暮らせる毎日にするために 」

残念ながら、人権学習会の日は、雪のため参観がなくなり、保護者の方と一緒に活動することはできませんでしたが、3年生だけで「同級生は外国人」というDVDを観て学習しました。それは、クラスに転校してきた外国人「ニコラス」という子と、ちょっとしたコミュニケーション不足から意思疎通ができず、すれ違いが起きます。しかし、互いの生活背景や理由を知ることで誤解が解け、互いのことを少しわかり合ったところで話が終わるという内容です。

鑑賞後「みんなで生きていくために大切なことは何か」考え、話し合いました。

## 【子どもたちの感想】

- 勝手に相手のことを決めつけたりしないことが大切だと思った。
- ニコラスは、体調を崩している母親の代わりに、妹のことを見るために学校を休んでいた。優しいと思った。  
本当のことをきちんと知ることが大切だ。
- 人はそれぞれ違う、自分のこと相手のことを知り合うことが大切だ。

などの意見がでました。今後、性別、年齢、国籍を超えた居場所をつくる国際交流コミュニティを運営されている方に来校いただき、話を聞かせてもらう機会を設けるなど、さらに取り組みを進めていく予定です。

#### ・4年生 「人権すごろく」

4年生は、人権すごろくの取り組みをしました。

取り組みの内容は、人権とは何かについて話し合った後、1人ひとりが人権俳句を読み、それをすごろくのマスにしてグループですごろくを作り、みんなで楽しむというものです。すごろくは、人権俳句のマスだけではなく、「みんなでにらめっこをしよう」や「1人ずつ好きな給食を言おう」というお楽しみのマスも入れて作りました。

みんなで人権すごろくを楽しむときには、俳句のマスに止まったら、「せーのっ」のかけ声で、グループのみんなが声を合わせて俳句を読みます。活動の最後には、自分がいいなと思った俳句とその理由を1人ずつ発表しました。

取り組み後の振り返りには、みんなとすごろくをしたことが楽しかっただけではなく、俳句を通して互いの思いを知ることができた喜びや、共感しながら学ぶことの大切さを感じたという内容の感想がたくさんありました。

残念ながら、人権学習会の日は、雪のため参観がなくなり、保護者の方と一緒に活動することはできませんでしたが、学年通信で取り組みの様子を伝えました。

##### 【子どもたちの振り返りより】

○俳句で、みんなが考えていることが分かって、自分も共感できてよかったです。

○自分が言ったことに対してリアクションを返してくれて、不安がなく楽しくできてよかったです。

○俳句を書いた人が、どんな気持ちで書いたのか、想像しながら読みました。

○当たり前だと思っていたことも、俳句にして読むと、そうだな、なるほど!と思ったことがたくさんありました。

○声を合わせて何回も同じ俳句を読むことで、その言葉の大切さがわかりました。

#### ・5年生 「親子でSSピンポンを体験しよう」

SSピンポンとは、三重県発祥の卓球台や卓球ラケットを使い、目が見える方でも見えない方でも楽しめる卓球から派生したスポーツです。三重県SSピンポン協会から、伊藤雅彦さん、稲毛洋子さん、四日市市社会福祉協議会の皆さん、四日市市スポーツ協会の皆さんをお招きし、第1時ではSSピンポンを体験し、第2時では視覚障がい者である伊藤さんやそれを支える稲毛さんのお話を聞かせていただいたりしました。第3時では、学年人権として、保護者の方も交えてSSピンポンを体験しました。

##### 【子どもの感想】

目で見てスポーツをすることが当たり前だと思っていたけれど、違うことが分かった。スポーツは誰でも楽しめるものだから、ルールややり方を変えて楽しめたらいいなと思いました。目が見えないとできないことは、他に何かあるのかを調べてみようと思いました。

##### 【保護者の感想】

SSピンポンという競技を初めて知りましたが、親子で楽しくできました。耳や目が見えなくてもスポーツが出来る工夫があり、誰でも楽しめることが大切だと思いました。スポーツ以外の場面でも、子どもたちが考えてくれたら嬉しいです。

#### ・6年生 「スマホトラブルの現状と課題～守るべきこと・考えること～」

インターネットを使うと便利なことは何か、インターネットを使うと困ることやしてはいけないことは何か、インターネットを使ってどういうことが原因で、けんかやいじめにつながってしまうのか、どうしたらそのようなトラブルを防ぐことができるかを考えました。学習会当日は、四日市市子ども未来部、青少年育成室の渡部さんに来校いただきお話を聞きました。そして、話を聞いて学んだことや考えたこと、今後大切にしたいことなど、保護者の方にも入っていただきグループで話し合いました。

##### 【子どもの感想】

トラブルが発生しやすいLINEなどは一番気を付けたいと思います。相手の心を傷つけないように送信する前はもう一度見直しをするなどの注意点に気を付けます。文字を書くだけで声のトーンなどが無いので、悪気はないのに喧嘩になってしまう可能性があるので気を付けないといけないと思いました。

##### 【保護者の感想】

実際に起きた事例を元に話してくれているので、怖さがより伝わりやすかったです。家では、しっかりと話し合う機会がなかったのが大変有意義な時間でした。これを機に家でもしっかりスマホの使い方を子供と一緒に確認してみたいと思います。